



①人気のパウンドケーキとクッキー
②敬老会の参加者に配られたクッキーも作成
③一針ごと丁寧に縫われたふきん

KOMNYれんげの皆さん（2列目真ん中左が村上さん）

KOMNYれんげでは毎月販売を行っています
次回販売のおしらせ
クッキー・パウンドケーキ販売
平成28年12月15日(木) 12時~
開成町民センター2階

「KOMNYれんげ」の和氣あいあいとした雰囲気は、村上さんの人柄による影響も少なくないように感じました。頼を緩ませていました。「KOMNYれんげ」の和氣あいあいとした雰囲気は、村上さんの人柄による影響も少なくないように感じました。

和氣あいあい 「障がいを抱えていても皆さん何らかの長所をお持ちです。」と話すのは、「KOMNYれんげ」所長の村上さん。多くの自主製作品をあげさいまつりなどのイベントや学校の文化祭に出品しています。刺繍作業を担当する女性の利用者も、「作業は、とても大変です。でも、作っていると楽しいし、いろんな人が買ってくれるのがうれしいです。」と笑顔。

KOMNYれんげ

「働く」という幸せ

KOMNYれんげ・合力の郷
(町内障害者就労支援事業所)

問 KOMNYれんげ ☎82-1499
問 合力の郷 ☎84-1931

「働く」ということは、当たり前のことではありません。それぞれの抱える障がいや病気によって、できること、難しいことがあります。できることは何かを知り、理解し合うことが共に生きることにつながるのではないのでしょうか。



①集中力が必要な刺繍作業(れんげ)
②旅館などで使われるタオルを1枚ずつ袋詰めする作業(れんげ)
③④封詰めや梱包、公園の清掃など作業内容はさまざま(合力)

合力の郷

「障がいがあるからといってできないと決めつけられない、特別扱いはいらない。」と話すのは、「合力の郷」理事長の津田さん。そんな作業所のキャッチコピーは、「優しく戦う作業所」。これは、利用者が自ら考えたキャッチコピーです。「戦う」という言葉には、自分自身と戦うという意味が込められています。働くことについて、利用者の方々に聞いたところ、「働くことで、自分の存在価値を確認できることが幸せ。」と皆さん口をそろえていました。

できないと決めつけられない
特別扱いしない



合力の郷のスタッフの皆さん（前列右が津田さん）

特集 障がい者週間

共に生きる

開成町は一人ひとりの個性を理解し、共に生きることができる町、誰もが活躍できる町の実現をめざしています。12月3日から9日は「障がい者週間」です。今月は、障がいを抱えながらも、活躍する皆さんを紹介します。

問 福祉課 ☎84-0316

小学校から始めた水泳

学校の授業をきっかけに、小学3年生で水泳を始めた森さん。

高校1年生の時には日本身体障がい者水泳連盟の育成選手に選出されました。それ以来、数々の大会に出場し、平成25年にマレーシアで開催された「アジアユースパラ競技大会」では、400メートル自由形リレーで金メダルを獲得しました。昨年、和歌山県で開催された「第15回全国障害者スポーツ大会」でも、50メートル自由形と50メートル



もり 森 かずま 一馬さん(上島)

背泳ぎで一位に輝くなど、優秀な成績を収めています。

水泳にかける想い

この快進撃の裏側にあるのは、並々ならぬ水泳への情熱と練習量です。

学業にも取り組みながら、大学のプールや相模原市内のプールで練習を積む毎日。障がいの水泳チームで専門的な指導を受けることもあり、練習時間は学校がある日は2時間、長期休業中など、多い時で1日6時間にもなるそうです。

目指すは2020年、東京パラリンピック

水泳を始めてからの夢であるパラリンピックへの出場を目指し、これからの練習の日々が続きます。

「リオデジャネイロパラリンピックの様子がテレビで放送され、一緒に練習をしてきた仲間たちが映っているのを見て、さらにパラリンピックへの想いが強くなりました。東京パラリンピックに出場したいですね。今は、自らが目標とするタイムに届くことを、一番意識しています。」

平成8年7月12生まれ、20歳。東海大学情報理工学部在籍。生まれつき足に障がいをもつ。水泳選手として、日本国内だけではなく、国際大会でも金メダルを獲得するなど、目覚ましい活躍を続ける。国体やアジアユース大会など、数々の大会に出場。優秀な成績を収め続けている。



多い時で1日6時間にも及ぶ練習風景

第16回全国障害者スポーツ大会に出場!!



大会の結果を報告する森さん(左)

今年10月に岩手県で開催された「第16回全国障害者スポーツ大会」では、50メートル自由形で4位、50メートル平泳ぎで3位と、本来の力が発揮できず、「調整不足だった。神奈川県より岩手県は寒かったため、アップが足りず、体がかたくなってしまった。」と悔しさを滲ませました。

